



ま 麻しん(はしか)の患者さんと 接した方へ



- ・麻しん(はしか)は、感染力が強く、予防接種を受けていないと多くの人がかかる病気です。そのため、一緒に生活しているご家族や、同僚、同級生など患者さんと接した方は麻しんにかかる可能性があります。
- ・麻しんは重い症状を引き起こすこともあり、注意が必要です。
- ・麻しんという病気の特徴を知っていただき、体調など以下のような点にご注意ください。

1. 麻しんはどんな病気？

患者さんと接したからといってすぐに発病するというわけではありません。

- ・潜伏期間は10～12日です。
- ・初期症状(はじめの2～4日)は発熱と咳、鼻水、目の充血などの風邪と同じ症状です。その後いったん熱が下がり(1～2日)、再び熱が出ると同時に全身に発疹がでます。さらに4～5日高熱が続きます。
- ・周りの人に感染させる期間は発熱が始まる1日前から解熱後3日です。



2. 麻しんの患者さんと接したらどうするの？

(1) 麻しんの予防接種歴を確認しましょう

- ・可能であれば、親子手帳(母子手帳)で麻しんの予防接種をしたかどうかを確認してください。
- ・麻しんの予防接種は以下のワクチンに含まれています。

麻しん・風しん・おたふく風邪ワクチン(MMR)
麻しん・風しんワクチン(MR)
麻しんワクチン

*上記の予防接種は昭和53年から始まりました。



- ・昭和45年以前に生まれた方は幼少期にほとんどの方がかかっています。一度かかった方が再度かかる心配はありません。



(2)自分自身の健康観察をしましょう

- ・体温を測定しましょう。もし体温が37.5度以上になった場合は、外出を控えて医療機関に相談してください。
 - ・体温の測定は、麻しん患者さんと接触してから3週間続けてください。
- ＊(1)で予防接種歴があった人も、1回の予防接種で免疫がつかない場合や、免疫が弱くなっている場合もありますので、健康観察することをお勧めします。

(3)熱が出て医療機関を受診する際には注意を

- ・受診する際は、事前に「麻しんの患者さんと接触があった。」ことを必ず電話で相談して、受診の方法を確認してください。

＊病院の待合室等で人にうつしてしまう危険があります。



(4)麻しんと診断された場合は

- ・熱が下がってから3日間経過するまでは、外出(通勤・通学等)はお控えください。

3.予防するには？



- ・外出後の手洗いは麻しんの予防にも有効です。
- ・栄養バランスのとれた食事、適度な運動、休養で体力をつけましょう。
- ・咳がある病気の時には、咳エチケットを心がけましょう。



4.予防接種は？

・麻しんの患者さんと接触した後、早期(3日以内)の予防接種は発病や重症化予防に効果があると言われています。麻しんにかかったことがなく、麻しんの予防接種が未接種の方には接種をお勧めします。主治医とご相談ください。

・麻しん患者さんと接してから時間が経っている場合、接種をしても発病を予防する効果が得られない場合があります。しかし、予防接種をしておくことで、今後の感染予防に効果があります。

＊ただし、この場合の予防接種は有料です。接種を行う医師から副作用等に関する説明を受け、納得した上で接種してください。



【問い合わせ先】

岡山市保健所感染症対策課(岡山市北区鹿田町1丁目1-1)

TEL:(086)803-1290 FAX:(086)803-1713